

高津区おはなしアーカイブ

●三ツ橋 健蔵（みつはし けんぞう）さん

昭和2年生まれ 87歳

川崎市高津区上作延在住



◆子供の頃の思い出

私はうさぎ年の生まれでね。八人兄弟の長男です。あの頃はどこの家でも子どもが多くてね。男の子でも子守をして手伝ったものでした。妹とは二歳違いですが、一番下の弟は戦後生まれで、私とは20歳以上も違うのです。

小学校は平にある向丘小です。一学年は40人足らずのクラスのみで、上作からは14人です。男の子の方が多かったかな。小学校には近所の子たちと一緒に歩いて登校しました。高学年になってからは皆をまとめる役でしたね。

だんだん戦争に近づく時代でしたが、男の子は木のこまを使った「こま回し」、「凧揚げ」などをして遊びました。まわりはど

こを見ても、広々とした畑でしたからね。女の子の遊び？それはよくわからないなあ（笑）、一緒に遊ぶこともなかったからね。

◆新聞配達のアルバイト

6年生になると新聞配達のアルバイトをしましたね。下作延の大沢新聞店です。朝暗いうちに溝の口駅に行って、着いたばかりのその日の新聞を受け取るのです。一番電車でしたから朝早かったですね。そして店に帰って新聞を仕分けして、20～30軒くらいあったかなあ。一軒一軒、配達しました。3年くらい続けたかなあ。あの頃は小遣いも貰えなかったから、いただいたお金でお菓子を買って食べるのが嬉しくてね。駄菓子屋さんに寄って、学校の行き帰りによく煎餅を食べながら歩いたものです。

近所の友人たちとは「アサリ採り」に行きました。前もって相談して日にちを決めて、皆で電車に乗って行くわけです。川崎大師の先の方までね。そうしたらアサリがびっくりするほど採れてね。家に帰ってアサリに砂を吐かせて、早速家の食卓でいただきました。

近くの平瀬川には竹がいっぱいあったので、夕立があつたりすると魚たちが入ってくるのですよ。田んぼにも魚が入ってきました。ドジョウもいたし、平瀬川に流し針を仕掛けると、くるくる跳ねまわるウナギやナマズも取れましたね。タニシやイナゴ

やエビガニもいてね。みんな取って食べましたね。

風呂焚きも子供の仕事でね。薪で木の風呂を沸かすのです。戦後は五右衛門風呂になりました。

◆当時の暮らし

父は戦地に行かずに済んだので、祖父と一緒に農業で生計を立てていました。私も尋常高等小学校を卒業すると、家の手伝いです。大根や白菜、茄子、胡瓜などの野菜を作り、牛で築地に売りに行きました。笛などは山を歩きながら地面のひび割れを目印にして「ここにある」という場所を見つけるのです。昼頃から掘り始めて一日5時間から8時間くらい作業をしたかな。リヤカーがいっぱいになるくらい積み込んで、朝まだ暗いうちに築地を目指して出かけていくのです。

梅雨時になると、雨の降る5月、6月は田んぼに行き、晴れると畑に行きました。雨の日は寒いから、田んぼに出るのは好きじゃあなかったね。あの頃は祖父が茶畑で茶を作っていて、暖かく晴れた日はお茶の葉を手で摘み取る作業をしました。そういう仕事は好きでしたね。そしてそれを台所で蒸してお茶にしていくのですが、祖父が火加減を見てくれたことなど覚えています。結局、茶畑はその後も続けて、12～13年くらい前まで茶を作っていましたよ。

今の家は昭和50年に建てたものですが、昔住んでいた茅葺き屋根の家は、義弟が小さな模型にしてくれて残してあります。今のハウスのところに昔の家がありました。今住んでいるここは竹藪だったのです。まわりがみんな新しい家にしてしまって、この家を建てるにも親父をずいぶん説得してね。あの頃は農家ばかり7～8軒でね。それこそ昔からの家ばかりね。今はすっかり住宅が増えました。



〈かやぶき屋根の家の模型〉

◆戦前から戦後の記憶

昭和14、15年になると、上作延のこのあたりは畑を軍に買収されてね。畑は一坪二円、山は一坪一円という安い値段でした。無理やりだったから、それはもうひどい話ですよ。祖父もがっかりしていましたね。祖父にとっては娘ばかり続き、私は本当に久しぶりに生まれた男の孫だったから、学校を卒業したら跡取りとして思いっきり働いてもらおうと思っていたようで、「いいよだな。これからだな」って期待して

くれたのに、軍に安く畑を買い取られてしまっ

あとで川崎市が津田山の墓地を作るために土地を買った時は、一坪四円だったと聞いて「なんだ、ずいぶんいいなあ」って思いましたね。

とにかく作物を作るようにしないといけないので、山を開墾し、竹藪を畑にしました。耕運機なんてものは昭和25年頃に出

てきたもので、当時は鍬ですよ。田んぼだっ

て一鍬、一鍬、耕していったのです。そして米や麦を作っていました。

戦争中はB29が飛んできて、そんなに怖かったという思い出はないです。たしか、空襲で上作延は二軒焼けたと聞きました。うちでは裏山の崖に掘った防空壕に入りましたね。戦争が激しくなってきた頃に祖父が子どもたちを連れて、夕方になると防空壕に行くのです。一晩そこ

にいて、朝出て来るのです。食べるものも自作していたから困ったということ

はなかったです。ね。塩は配給でしたが、味噌や醤油は自分の家で作っていました。もろみから醤油を絞ってくれる専門の仕事の人がいて、頼んで来てもらっていたのです。

小学校では避難訓練もなく、疎開もする方ではなく受け入れる方でしたし、あの頃は集団疎開もありましたが、昼間の間だけ疎開してきて夜には帰る、という人もいましたね。このあたりは静かなものでしたよ。ただ近所に住む伯母や、



〈思い出を語る三ツ橋さん〉

伯母の連れ合いの伯父が戦争で沖縄に行

って亡くなりましたね。

終戦の日もいつもと変わらず田んぼの草取りをしていました。暑い日でね。草取りの後は平瀬川で泳ぎました。そうしたら天皇陛下の玉音放送があつて終戦を知ったのです。近くの酒屋の「関本屋」さんの店にラジオがあつたので、そこに行つて聴いたのです。

戦時中は近くに62部隊があつて、将校もいてね。戦争が終わると、軍人さんは演習場の土地を一人五反も取っていったね。それ以外の土地を皆で開墾して、あとから村中で分配しました。小作をしていた人も多くて、戦後の農地解放もあつたからね。

うちでは来る日も来る日も畑を増やそうと、鍬で開墾していましたよ。戦後は買い出しで東京の方から人が来ましたね。でも米は家族が食べる分を残して、あとは全て供出でした。どうなったか分からないけど、配給米になったのでしょ

27歳の頃には野菜を運ぶために車を買いました。三輪自動車をね。それまでは牛で運んでいました。あと動物は、豚や鶏を飼っていました。鶏は家の中で放し飼いにし、一緒に生活してましたね。家の周りには田んぼや畑が広がって用水路もあったね。

買い物は専ら近所の「関本屋」さんに行きました。当時は酒屋で、その後はスーパーになり、今はもうありません。あの頃は味噌や醤油、煙草を扱っていましたね。

結婚は昭和29年、27歳の時です。有馬から嫁いできた家内は4歳下で、お見合いでした。残念ながら3年前に亡くなりましたが、長女、長男、次男、みんな結婚して孫も3人おります。11月には曾孫も生まれる予定です。

◆消防団と青年団

学校を卒業すると同時に「大人の仲間入り」で消防団に入るのです。地元の若い人17人が団員で、先輩にいろいろ教えてもらいました。火事があると向ヶ丘の農協から有線放送が流れて消防団が出動するのですが、消防署の車が来るのを待っていたら焼けてしまう、なんて時は消防車より早くポンプ車で現場に駆け付けたものです。川崎市の公設消防団としては上作延、神木、そして菅生がそうでしたね。正月早々には「出初式」があります。ものすごく寒かったから、終わったら飲みましたね。何しろ先輩から飲まされたね（笑）。

青年団にも入っていました。上作延の郵便局のところに青年倶楽部という集会所がありました。青年団では4月15日は創立記念日の「花見」って決まっていたので、向ヶ丘遊園の桜を皆で見に行ったりしてね。酒飲んでわいわい騒ぐのが楽しみでね。

楽しみといえば映画館にも行きましたよ。三軒茶屋まで玉電に乗って、チャンバラ映画や時代劇を見ましたね。あの頃は一本だけでね。溝口の高津館にも行きました。それはまあ、戦後だね。

◆代々守り継ぐもの

三ツ橋の家では代々「藤左衛門」の名前を継いでいて、私で第十七代になります。家の敷地の中には、数代前のご先祖様が建てた「お社」もありますよ。私はここに生まれてずっと住んでいるから当たり前だと思うことも多いけれど、長男の嫁は北海道から嫁いできて、今も昔ながらの家のしきたりを守ってくれています。



〈お社・三ツ橋家敷地内〉

例えば嫁を迎えたり、子供が生まれたりという、いわゆる家族が増えたお披露目には「三つ目のぼたもち」を作って親戚や近所に配ります。季節の行事は毎月のようにあって、正月の御節、豆まき、お節句、彼岸、お盆などは親戚や近所の人が来るので、料理を出してもてなさないね。菱餅や蛤を使ったりしてね。秋には9月の十五夜、10月の十三夜もあるし、万度の御会式や、それぞれのしきたりもあるから大変だね。お祭りの時はお赤飯や煮しめを近所に配り、お互いにやり取りをする習慣があったね。親戚に配るのも前は五升だったけど、少しずつ簡単になっているのかもしれないけどね。

皆が集まる正月は特に賑やかだね。お雑煮は里芋、小松菜、大根を煮込んで、醤油仕立てのつゆで、餅は四角だね。餅つきも今は機械だけど、弟一家も手伝いがてら来てくれるからね。



〈樹齢 400 年の柿の木 三ツ橋家敷地内〉

◆未来へ

このあたりの祭りは一緒に祝うのですよ。神明神社と赤城神社の二つで、9月25日に近い土・日に開催されます。神輿を担ぐのは青年団で、まあ派手でしたね。でも祭りは活気があっていいものだなあ、ずっと続いてほしいなあと思います。

私は今も毎日、畑に出ています。朝6時から夕方6時までね。夏は採れたての茄子や胡瓜、トマトを販売していますよ。冬になればホウレン草、小松菜、大根、白菜、キャベツにブロッコリーも出てきます。

長男には別の土地を任せてあるし、嫁さんも一緒に一生懸命やってくれますから安心だね。

今は11月に初めての曾孫が生まれる予定なので、無事であってほしいなあ願っているところです。

(平成27年10月5日取材)